

科学が好きな子どもを育てる教育実践・計画を支援する「ソニー子ども科学教育プログラム」

全国約 200 の小・中学校の中より選ばれた最優秀 2 校

研究成果を発表する「子ども科学教育研究全国大会」開催

公開授業などを通じ県内外の教育関係者に向けて独自の教育指導法を公開

10月18日(金) 愛知県刈谷市立 富士松中学校

11月15日(金) 愛知県西尾市立 中畑小学校

後援: 文部科学省、愛知県教育委員会、愛知県小中学校長会 ほか

公益財団法人 ソニー教育財団(会長 中鉢良治)は、日本の未来を担う子どもたちの知的好奇心や創造力を伸ばし、新しい世界を切り拓く人を育てることを目的として、1959年より全国の小学校・中学校およびその指導者へ向けた教育支援を続けています。

「ソニー子ども科学教育プログラム」は、ソニー創業者である井深大により1959年に始められたソニー理科教育振興資金が、教育・社会の変化に伴い形を進化させながら、53年にわたり継続している科学教育の振興支援活動です。現在では、「科学が好きな子どもを育てる」教育実践と計画の論文を小・中学校より募集、斯界を代表する方々の審査により、特に優れた学校を表彰し支援しています。これまでに延べ11,000校を超える応募があり、約5,000校が受賞しています。最優秀校では、広く研究成果を発表する場として「子ども科学教育研究全国大会」を開催。全国から300名以上の教育関係者が大会を訪れます。

今回、「全国大会」(研究発表)を行う刈谷市立富士松中学校(校長:丹羽宏行/愛知県)および西尾市立中畑小学校(校長:鈴木洋一/愛知県)の両校は、2012年に全国の小・中学校よりご応募いただいた199校の中から選出され、本プログラムの審査委員長である御手洗康(元文部科学事務次官)などによる書類審査、現地調査および最終審査を経て「最優秀」を受賞。今まで実践してきた取り組みや成果について、公開授業などを通じて先生方を中心とする教育関係者にご紹介いたします。  
※両校を含む過去の優秀校受賞論文は、当財団HPで公開中



### 「ソニー子ども科学教育プログラム」最優秀校 研究発表会 開催概要

- 主催: 下記の各学校、ソニー教育財団、ソニー科学教育研究会
- 後援: 文部科学省、上記各関係教育委員会 ほか

#### ■ 愛知県刈谷市立富士松中学校(愛知県刈谷市今川町)

開催日時: 10月18日(金) 9:20~16:35

研究主題: 科学が好きな生徒を育てる新・富士中プロジェクト  
~主体性、創造性、感性を高める新規開発計画~

内容: 担当教員による研究発表、各学年各教科での授業公開、他学校教師間の交流など  
記念講演: 木川栄一氏(独立行政法人海洋研究開発機構 海底資源研究プロジェクトリーダー)

#### ■ 愛知県西尾市立中畑小学校(愛知県西尾市中畑町)

開催日時: 11月15日(金) 9:00~16:20

研究主題: 「はてな」「なるほど」「もっと」がいっぱい 中畑アクションプラン  
~地域とともにサイエンス~

内容: 担当教員による研究発表、各学年各教科での授業公開、他学校教師間の交流など  
記念講演: 中村佳子氏(JT生命誌研究館 館長)



# 愛知県刈谷市立富士松中学校 研究発表会

論文テーマ: 科学が好きな生徒を育てる新・富士中プロジェクト  
～主体性、創造性、感性を高める新規開発計画～

## 【審査講評】

富士松中学校は、生徒に「素晴らしい事象」にふれさせるべく、教材の開発と事象との出会いを中心に、単元構成や授業構成に取り組んでいます。これまで、ソニー科学教育プログラムにおいて、昭和48年度と平成6年度と2度も最優秀校に輝き、たびたび優秀校にもなっている実績から、すでに、独自に開発した教材や創意工夫された単元構想がたくさん蓄積されていることと思います。そういう中においても、現状での教育課題を踏まえて、より質の高い単元構成を求めて、創意工夫が重ねられています。これは、言ってみれば先生方に流れる「富士松スタイル」ともいえるべき、貴校の一貫した科学教育の理念であると感じました。

今回の論文においても、多くの「素晴らしい事象」とのふれあいの工夫が行われていました。また、その事象との出会いから意欲的な探究が始まり、生徒が考えを交流し深める場の工夫も行われていました。さらに、科学の目をもって生活をみる単元のまとめの授業は、科学の有用性を実感するうえで効果的な取り組みでした。こうした生徒一人一人が生き生きと探究する授業を創造する取り組みは、たいへん優れたものであると判断しました。

開催日時: 2013年10月18日(金) 9:00～16:35  
会場: 刈谷市立富士松中学校 住所: 愛知県刈谷市今川町花岡114番地  
アクセス: JR 東海道本線または名鉄三河線「刈谷駅」北口より送迎バス運行

## 【実施内容】

9:20 ～10:15	<b>&lt;研究発表&gt;</b> 科学が好きな生徒を育てる新富士中プロジェクト ～主体性、創造性、感性を高める新規開発計画～
10:25 ～10:55	<b>&lt;ポスターセッション①&gt;(展示発表と、教師間交流)</b> ソニー子ども科学教育プログラム(2012年度)の入選校20校による、論文の発表と実践交流
11:10 ～12:00	<b>&lt;公開授業Ⅰ&gt;(全学年11展開)</b> ◆2年理科:「富士松中の気象データからどんなことがわかるだろうか」 ◆3年理科:「身近なものがなぜ電池になるのか」 他、国語、数学、英語、保健体育、音楽(特別支援)での公開授業
13:00 ～13:50	<b>&lt;公開授業Ⅱ&gt;(全学年12展開)</b> ◆1年理科:「浮く・沈むとは」 ◆2年理科:「ヤモリの巧みな仕組みやはたらき」 他、国語、数学、英語、社会、美術、技術、家庭、保健体育での公開授業
14:00 ～14:40	<b>&lt;ポスターセッション②&gt;(展示発表と、教師間交流)</b> ソニー子ども科学教育プログラム(2012年度)の入選校20校による、論文の発表と実践交流
14:50 ～16:10	<b>&lt;記念講演&gt;</b> 独立行政法人海洋研究開発機構 海底資源研究プロジェクトリーダー 木川栄一氏 「海底資源: 開発の現状と最先端の研究」

# 愛知県西尾市立中畑小学校 研究発表会

論文テーマ: 科学が好きな子どもを育てる中畑アクションプラン

～「はてな?」「なるほど」「もっと!」と実感できる学校・地域でサイエンス～

## 【審査講評】

中畑小学校は、「科学が好きな子どもを育てる中畑アクションプラン」として、地域の自然や人材などの教育資源を活用した魅力ある教育活動の創造を目指して、体験的な学習や自然に親しむ活動、主体的な問題解決学習を大切に理科、生活科、総合的な学習の推進に、7年間にわたって取り組んでこられました。継続して実践された成果が、問題解決の追究過程を楽しみながら、実感のある学びをする子どもの姿として結実しています。

本年度は、「はてな?」「なるほど」「もっと!」と実感できる学校・地域でサイエンスをテーマとして、3つのアクションプラン「実感のある学びを展開する理科、生活科」「中畑ドリーム」「地域とともにみんなでサイエンス」を掲げ、それぞれについてねらいと手だてを設定し、創意工夫を図った具体的な実践が満載されています。実感のある学び、言語活動の充実、科学的思考力・表現力の育成、親子での研究発表会やサイエンス教室、地域の人的教育資源や自然環境を活用した単元学習など、実践事例を通して、手立てや観点などの有効性が実証的に示されています。サイエンスノートや発表の指導・評価についても、教師の子ども一人一人へのきめ細かな対応が図られています。これまでの実践の成果として、教師の授業力が高まり、子ども一人一人の主体的な活動に結びついていると思われまます。

こうした具体的な取り組みは、他校の参考になる優れたものであると判断しました。

開催日時: 2013年11月15日(金) 9:00～16:20

会場: 西尾市立中畑小学校 愛知県西尾市中畑町犬塚 65 番地

アクセス: 名古屋鉄道西尾蒲郡線 西尾駅より名鉄バス(中畑循環線)で約15分、  
「中畑小学校北」下車後、徒歩5分 ※西尾駅より送迎バス運行予定

## 【実施内容】

9:20 ～9:40	<p style="text-align: center;"><b>&lt;研究発表&gt;</b></p> <p>科学が好きな子どもを育てる中畑アクションプラン ～「はてな?」「なるほど」「もっと!」と実感できる学校・地域でサイエンス～</p>
10:00 ～10:45	<p style="text-align: center;"><b>&lt;公開授業Ⅰ&gt;(全学年13展開)</b></p> <p>◆3年理科:「マイじしゃくのふしぎ発見!」 ◆4年理科:「空気の魔術師になろう-ものの温度と体積-」 ◆5年:「探ろう電気が生み出すスーパーパワー」、「矢作川の恵-矢作川の水を使った米作り-」 ◆6年:「もっと探ろう 電気のひみつ」、「てこのひみつを探ろう-てこのはたらき-」 他、生活科、総合での公開授業</p>
11:05 ～11:50	<p style="text-align: center;"><b>&lt;公開授業Ⅱ&gt;(全学年11展開)</b></p> <p>◆1年:酪農体験「仔牛とふれあう授乳体験」 ◆2年:地産地消「おいしい西尾のキュウリ」、科学実験「おもしろ科学体験」 ◆3年:科学実験「われにくいシャボン玉」、自然環境「矢作川のスペシャリスト」 ◆4年:防災減災「災害から身を守る」、健康食品「スナック菓子と食油」 ◆5年:科学技術「電磁石とモーター」、科学実験「種子の不思議」 ◆6年:星と宇宙「星の楽しさをあなたに届けたい」、先端技術「藻から油をつくる」 他、外部講師による出前授業</p>
12:00 ～13:00	<p style="text-align: center;"><b>&lt;生徒によるアトラクション&gt;(無形文化財 披露)</b></p> <p>◆佐久島太鼓:佐久島小中学校・・・佐久島に伝わる和太鼓を演奏 ◆御殿万歳:西野町小学校・・・700年の伝統を誇る三河万歳を演舞 ◆田貫の棒の手:中畑小学校・・・本校校区の無形民俗文化財「棒の手」を披露 ◆お点前披露:平坂中学校・・・校区中学校の茶道部員が、お点前を披露</p>
13:10 ～14:10	<p style="text-align: center;"><b>&lt;ポスターセッション&gt;(展示発表と、教師間交流)</b></p> <p>ソニー子ども科学教育プログラム(2012年度)の入選校11校による、論文の発表と実践交流</p>
14:30 ～16:00	<p style="text-align: center;"><b>&lt;記念講演&gt;</b></p> <p>JT生命誌研究館 館長 中村佳子氏 「生きものはつながりの中に」</p>

## ■ ソニー子ども科学教育プログラム

「科学が好きな子どもを育てる」をテーマに、全国の小学校・中学校の科学教育、理科、総合的な学習に関する論文を毎年募集しています。毎年約 200 校の学校から、テーマに対する課題論文として学校での取り組みをまとめてご応募いただいています。元・文部科学事務次官の御手洗康氏などにより、実践、考察・評価、次年度計画について審査します。予備審査・中間審査を経て、最優秀校など上位の入選候補校に関しては現地調査も行います。上位入選校は翌年、計画の実践とともに、全国の教育現場でその成果を共有できるよう、「子ども科学教育研究全国大会」を含む、主題に迫る取り組みの積極的な発信にご協力いただきます。

## ■ ソニー教育財団のあゆみ

1959	「ソニー小学校理科教育振興資金」開始
1963	「ソニー理科教育振興資金受賞校連盟」結成
1969	「(財) 幼児開発協会」設立
2001	「ソニー子ども科学教育プログラム」開始 「(財) ソニー教育振興財団」と「(財) 幼児開発協会」を統合し、「(財) ソニー教育財団」となる
2002	「ソニー理科教育振興資金受賞校連盟」を改組し、「ソニー科学教育研究会 (SSTA)」発足 「ソニー幼児教育支援プログラム」開始
2011	「公益財団法人 ソニー教育財団」に移行

## ソニー教育財団の活動について

1946年東京通信工業創業者のひとり井深大は、その設立趣意書の中で「自由豁达にして愉快なる理想工場の建設」、「国民科学知識の実際の啓発活動」を目標に掲げています。日本の将来の発展を支える子どもたちが科学に関心をもち、科学を好きになるには、小・中学校における理科教育が最も重要であると考え、会社名をソニーへと変更した翌年の1959年に「ソニー理科教育振興資金」の贈呈事業を始め、そしてこの事業を継続的に発展させるため、1972年に「財団法人ソニー教育振興財団」を設立しました。



ソニー創業者 井深大

その後、子どもたちの豊かな心を育てる教育が大切になると考え、1987年に、理科教育の枠を越えて「ソニー教育資金」と名称を変え、2000年には、子どもたちの感性・創造性・主体性の育成を目指したソニー子ども科学教育プログラムへと発展し現在に至っています。これまでに、延べ11,000校を超える応募があり、5,000以上の小・中学校に教育資金を贈呈するなど、子どもたちの教育に創造的、先駆的な取り組みを行っている全国の学校や先生方を支援してきました。

一方で、井深大は「人間の能力は“環境”によって作られる」との考えから、幼児教育の大切さを訴え、1969年に「財団法人 幼児開発協会」を設立しました。乳幼児期の保育や教育を研究し、「あと半分の教育」や「幼稚園では遅すぎる」などの多数の著書を出版、社会的に大きな反響を得ました。子育てにおいては母親と子の絆が大切と考えて、長年にわたり母と子の教室などの活動を実践しました。

2001年には、2つの財団を統合して財団法人 ソニー教育財団を設立。幼児期の豊かな感性と創造性の育成を願い、幼児教育支援プログラムを開始しました。さらに新たな活動として、2005年に小・中学校の子どもたちを対象にした「科学の泉ー子ども夢教室」、2007年からは「ソニーものづくり教室」、海外の教育組織との交流、「科学する心」を見つけようフォトコンテストを始めるなど、教育支援の活動規模を増やししながら展開しています。

### <報道関係の問い合わせ先>

公益財団法人 ソニー教育財団 東京都品川区北品川 4-2-1

TEL:03-3442-1005 FAX:03-3442-1035 (担当 山下)

公式ホームページ: <http://www.sony-ef.or.jp/>

公式フェイスブック: <https://www.facebook.com/SonyEducationFoundation>